

③〇 房総風土記の丘と周辺 古墳群と坂田ヶ池の野鳥観察

【概要】印旛沼北側の台地に位置し、6世紀以降造られた百数十基からなる古墳群を形成している。全国2番目の規模の方墳とされる岩屋古墳、古墳時代最終期に造られた地域最大の前方後円墳である浅間山古墳などがある。また、マツ林やコナラ林などの林は、北総台地の貴重な里山景観を形成している。近くの坂田ヶ池総合公園にある約5haの池は水鳥の観察スポットとなっている。

【森林の特徴と見所・歴史文化】

印旛沼北東部標高30mの台地上に位置する龍角寺古墳群は、6～7世紀に造営された古墳群なので、前方後円墳37基、方墳6基、円墳71基全部で114基の古墳が確認されており、うち78基が房総風土記の丘エリアに含まれている。

総面積32haの豊かな自然環境に囲まれた園内には明治32年建築で国指定重要文化財である旧学習院初等科正堂、江戸中期の中規模農家で国指定重要文化財である旧御子神家住宅、同じく江戸中期に建てられた県指定有形文化財で富津市より移築の旧平野家住宅など公開されている。

風土記の丘資料館には県内各地の遺跡から出土した考古資料を収蔵展示している。この資料館の前からは、白鳳道を通して遠く白鳳時代に遡る龍角寺へ至ることができ、さらに印旛沼を望む遊歩道などが整備されている。

房総風土記の丘の植生を大別すると、アカマツ林、アカマツ・コナラ林、コナラ林（雑木林）、竹林、草地に分けられ、その他水生植物園がある。アカマツ林は毎年下草を刈る林と、自然のままの林に分けられる。下草の刈られる林ではススキ、ワラビなどの陽性植物、ヌルデ、ガマズミ、タラノキなどの陽樹が生育しているが、自然林にはアズマネザサが繁茂しドクダミ、ゼンマイなどの陰性植物が目立つ。

コナラの多い雑木林内は多少アカマツも含み、コナラ、クリ、クヌギなどの落葉広葉樹とスダジイ、カシ類などの常緑広葉樹が混在している。旧平野家の周辺にはモウソウチク、クロチク、ホウライチクなどの竹類やおカメザサ、クマザサなどの笹類が植栽されている。古墳広場の草地には30種類近くの野草が見られる。

坂田ヶ池総合公園は江戸時代に灌漑用として作

られた、約5haの水面を有する坂田ヶ池を取り囲んだ公園で約17haの広さを持ち、平成元年に整備された。洪水を防ぐための人柱伝説にまつわる「片歯の梅」と呼ばれる梅の木も池のほとりにたたずんでいる。池の周りには木材チップを敷いた遊歩道が整備され、冬には多くの水鳥が飛来し、野鳥観察に人気のスポットとなっている。

風土記の丘に隣接して、方墳として日本有数の規模を誇る岩屋古墳がある。墳丘は3段構成で、一辺78m、高さ13.2m、幅3mの周溝と周堤よりなっている。この地は遠く白鳳時代さらにそれ以前に遡る歴史、印旛沼を遠望しながら雑木林の中の散策、野鳥類の観察と変化に富んだフィールドとして楽しんでいただけたらと思う。

【コース紹介】

房総のむら駐車場①から遊歩道を歩いて風土記の丘資料館②へ。資料館横から白鳳道へ入る。古墳広場を抜け遊歩道を進むと水生植物園に達する。橋を渡って坂を上り右折して古墳群の中の道を進む。車道を横断して「印旛沼の見える遊歩道」で気持ちの良い里山散策が楽しめる。途中、印旛沼展望台③があり眺望を楽しもう。十字路を右折し、針葉樹の中を進むと坂田ヶ池が見えてくる。

左折すると水生湿生植物園④に出る。水生湿性植物園を一周して坂田ヶ池を池に沿って左回りにめぐる。浮橋を過ぎ右に上ると、埴輪を並べた101号古墳の前に出る。その先に旧学習院初等科正堂⑥があり昼食に良い広場がある。ここの裏から車道を渡ると、日本第2の方墳である岩屋古墳⑦に着く。来た道を引き返して旧学習院初等科正堂裏の道をたどると旧平野家住宅⑧、旧御子神家住宅⑨と続き、房総のむら駐車場へ戻る。一周約6km。昼食を含め約4時間の散策となる。



写真② 風土記の丘資料館



写真⑥旧学習院初等科正堂



写真③印旛沼展望台より印旛沼を望む



写真⑦岩屋古墳



写真④水生湿性植物園



写真⑨旧御子神家住宅



写真⑤坂田ヶ池総合公園

コースで見られる主な植物

【木本類】

アカマツ、コナラ、アジサイ、サクラ、ヒサカキ、サザンカ、キンメイモウソウチク、ヤマツツジ、ラベンダー

【草本類】

タチツボスミレ、フデリンドウ、マムシグサ、オカトラノオ、コスモス、ヤマユリ、ハンゲショウ、ヒガンバナ

【その他】

水生植物のコウホネ、スイレンなど